



ホア ビン (平和)

HOA BINHレポート

JVPF 特定非営利活動法人 日本ベトナム平和友好連絡会議

NPO Japan Vietnam Peace and Friendship Promotion Council

〒162-0801 東京都新宿区山吹町316番地菊池ハイツ101 TEL 03-3268-4387 FAX 03-3268-6079
#101, Kikuchi Haitsu, Yamabuki-cho, Shinjuku-ku, Tokyo, Japan TEL(81)3-3268-4387/FAX(81)3-3268-6079
http://ifcc1985.com jvccpf@rmail.plala.or.jp

54号

2023年テト
(1月22日)会費/正会員:(個人)5,000円(団体)50,000円 口座名/特非)日本ベトナム平和友好連絡会議
◎郵便振替 00110-2-188872 ◎三菱UFJ銀行・江戸川橋支店(普通)1215225
◎ゆうちょ銀行・〇一九(ゼロイチキョウ)店(当座)188872

日越外交関係樹立50周年の年に

平和と友好と連帯の活動の発展へ



ハザン省日越友好植林事業/植栽ボランティア活動様様(於:フオンドー社 2023年1月10日)

新年とテト(旧正月)のご挨拶を申し上げます。2023年が、日越関係のみならず世界の平和への礎の年となりますようお祈り申し上げます。

昨年、2022年はコロナ禍が終息しない中での工夫した活動を模索した年でしたが、皆様のご協力で「枯葉剤被害者支援/ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」を3年ぶりに実施することができました。JVPFの活動の大きな柱である事業の明かりを灯し続けられたことに関係者の皆様のご協力の賜物と感謝申し上げます。

チャリティーコンサートで枯葉剤被害者支援のための基金をつくることは不十分でしたが、「連合・愛のカンパ」の助成も得て枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈の支援活動を実施することができました。

今なお、枯葉剤爆弾被害者の「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という叫びが続いているなかですが、巷間、「戦争」という言葉が躍っている昨今です。枯葉剤爆弾被害者支援活動の今日的な意義がますます問われてきているようです。

迎えた今年、2023年は日越外交関係樹立50周年となります。この記念の年に、JVPFは日越友好植林事業を開始することになりました。

継続してきている少数民族出身学生奨学金支援事業はサポーターの高齢化などあり、継続するには幾多の困難も生じています

が、「少数民族出身学生寄宿学校での支援活動」がベトナム側から唯一JVPFのみに認められていることから、その役割に今後とも応えていきたいと思いを。

テト(新年)にあたり。

JVPF 副理事長 鎌田篤則



【本号の内容】

- ・2022 ベトナムアンサンブルコンサート報告(鹿児島、奈良、東松山、相模原)/2~4p
- ・各地の活動報告(宮崎、福岡、香川、広島)/5~6p
- ・23春訪問団報告・速報(友好植林、枯葉剤被害者調査慰問、仁愛の家寄贈、少数民族学生奨学金)/6~7p
- ・寄稿・元・原発予定地タイアン村で想う/8p
- ・掲示板/7p

2022枯葉剤被害者支援/ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート JVPFの活動の柱を残すことができました。

御 礼

アンサンブルは、10月7日に来日し、9箇所で開催されたチャリティーコンサート、3箇所で開催された文化交流演奏会（福岡・朝鮮初等学校、東広島・HVPF交流会、埼玉・門川町での民族楽器紹介・演奏）を行い10月27日に帰国いたしました。来場者は約2,300人、チケット購入協賛者は約2,700人になりました。

コロナ禍で3年ぶりの開催となり、幾つかの懸念もクリアし公演回数は少ないでしたが、各地で感動を呼ぶ公演となり夫々の公演は予想を超える参加者で主催者や公演実行委員会の方々のご尽力の賜物と感謝する次第です。

今回は回数25年目（2020年、2021年は中止）となり、累積で公演会場394会場、来場者数約117,300人を数えることになりました。

今回はまた京都・朝鮮歌舞団のご協力を得て初めての京都公演が開催できるなど、今後へとつながる活動もできました。

“わたしの体の中では戦争が終わっていない”という枯葉剤爆弾被害者の叫びに応えた活動の爪痕を残すことができました。

なお、2023年1月8日からベトナム・ハザン省に赴き枯葉剤被害者貧困家庭への「仁愛の家」寄贈をしてきました。

2022 公演事務局

久しぶりの鹿児島公演で、こうした課題について理解と共感をいただけたものと考えています。そして、公演自体についても、「大変感動した」「普段見慣れない演奏や楽器、踊りや歌に酔いしれた」「最後のなだそうそうの歌では、涙が出るほどだった」など、大変好評のお声をいただきました。



短期間の準備となり、不手際もありましたが、多くの仲間へ実行委員としてご協力いただきましたことにも感謝申し上げます。当日ご参加いただいた全ての皆さまにも御礼を申し上げます。

いただきました「協力金」は、「枯葉剤被害者支援」に有効活用させていただきます。有難うございました。

（鹿児島公演実行委 事務局 前田秀一）

奈良公演

こんな時代に つながることで成果をあげる

～ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート2022奈良公演を終えて～

4年ぶりの奈良公演実行委員会は、前回と変わらない顔触れでスタートしました。平和フォーラム、労音、アイ女性会議や脱原発等の市民運動の皆さんが支えてくれました。

今回初めて連合奈良に協力を依頼したところ、協賛団体として取り組んでもらえることになり、ありがたいことでした。前回は教訓に幅広く宣伝する工夫として、ローソンチケットにも取り組み、1組でしたが成果がありました。一般の入場料3000円は少々高いと思いながらの設定でしたが、小学生以下を無料にしようという提案を受けて実施したところ10人くらいの子どもの参加がありました。また、ベトナム国籍の方にも声をかけ、家族5人で参加してくれた方がいます。

行政の後援は、今回、旧統一教会系の団体へ後援が問題になったこともあり、特に初めての県では、用意したチラシに指摘が入りボツになるなど厳しい状況がありました。準備段階でのあたふたを乗り越えて、ようやく当日を迎えました。

司会の堀田美恵子さんは前回に続き2回目。品のある清楚な語り口は、大絶賛！！でした。実行委員長の挨拶で、ベトナム戦争の概要と枯葉剤被害に触れていただき、私たちのできることは何か、伝えてもらったのではないかと思います。また、それぞれが工夫をしながらつながりを通じて声をかけてくれたことが、前回より参加者数の増加につながったと思います。

【参加者からの感想】

●20年ほど前にハノイへ行ったことがあります。コンサー

鹿児島公演

350人の参加を得て、盛会の開催

コロナ禍で危ぶまれた鹿児島公演は、コロナの猛威も幾分か和らぎを見せ始め、10月9日（日）14時半から約2時間の開催が無事出来ました。

鹿児島市教育委員会、MBC南日本放送、南日本新聞社様の後援をいただくとともに、多くの団体の皆さまに後援協賛をいただきました。当日は、コロナ対策に留意し、座席間隔をとっての鑑賞となりましたが、予定した座席が満杯になる程のご参加をいただき、盛会のうちに開催し、無事終了することが出来ました。

今回のコンサートは、一つとしてベトナム戦争時の化学兵器「枯葉剤」被害支援、二つとして在鹿ベトナムの方々との触れあいなどを目的として開催致しました。

「猛毒除草剤」が、日本国内でも製造されていたことや、戦争終結で「使われず残った枯葉剤」が、国内24県168ヵ所、鹿児島県内には5市町に6.2トンが国有林などに破棄され埋設されていること、それが最近豪雨災害等で流出の懸念が高まっていることなどが判明しているところです。

また「日本とベトナムとの市民レベルでの文化交流での相互理解」の活動の一環として取り組んでいる事です。在鹿ベトナムの方々にも多くの参加をいただき、今後交流を深めて行きたいと考えています。



トでは、その時の「ベトナムの風」を全身で感じました。中でも石の打楽器演奏は圧巻！音楽もダンスもハイレベルでたっぷりであり、満喫しました。これでベトナム料理があれば最高！（Iさん 男性）

●仕事帰りの夫と待ち合わせて参加しました。珍しい楽器の演奏と共に、遠い国に思いを馳せました。（Mさん 女性）

●久しぶりのコンサート、大変感動しました。受付でいただいたコンサートの冊子を隅から隅まで読んでいます。僕の友人は西宮市からわざわざきましたよ。（Iさん 男性）

●初めての楽器や歌やダンスに驚くばかり、もっと参加するように呼びかけたら良かった。（若者 男性）

●実力ある歌舞団だということを伝えきれていなかったと思う。チャリティーという名称がボランティアかアマチュアのような印象を受ける。広報に工夫を。（Uさん 女性）

（奈良公演実行委員会 阪本美知子）

埼玉・東松山公演

チケットを手渡し販売で429人の参加

10月24日（月）午後6時より、東松山市民文化センター（1200人）において、約400人の方の参加を頂き、ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを開催しました。

実行委員会は、10人弱の主婦と、労働組合の人で、年齢的には60歳から80歳の人で構成されています。今回の収入はチケット代104万円（2500円で約420枚）、広告代55万円です。

チケットは、実行委員が手渡しで販売しているの、買った人は殆ど見に来てくれます。ロータリークラブの例会とし、50枚購入してもらっています。ロータリーの活動には、国際奉仕があり、その活動に入れてもらっています。

広告代は、一口1万円で、チケット1枚を進呈しています。ロータリーの会員は経済的余裕のある事業者なので、広告の半分以上が会員からです。残りの大半は、私の仕事上の付き合いの弁護士、会社等です。田舎なので、チケット代を2500円以上とするのは無理という声があり、広告代で売り上げを伸ばすしかありません。

コンサートの内容は素晴らしいので、多少、無理を言ってもあとで、良かったという声が多く聞かれます。手紙を出し

て、応答のない人には、私が直接電話をしてお願いをすると、快く？応じてくれます。

チケットを売る人が高齢者なので、買う人も高齢者が多く、土日の昼間やってほしいという声が多くあります。

（東松山公演実行委員会会長 山下茂）

●アンケート結果に自信をもらった！！

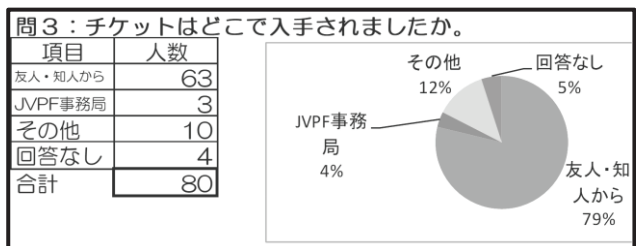
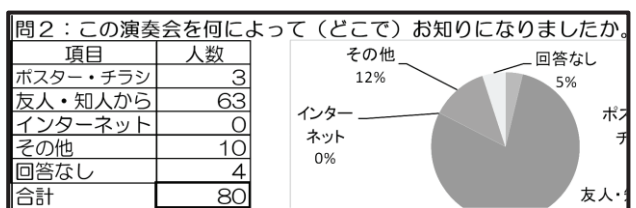
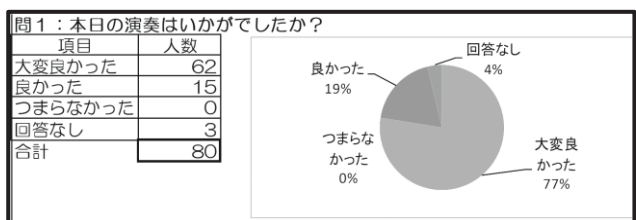
主催は同公演実行委員会、東松山市、比企地区市町村教育委員会連合会、東松山むさしロータリークラブ後援、協賛に埼玉中央農業協同組合、埼玉弁護士会熊谷支部、(財)原爆の凶丸木美術館、日本ベトナム平和友好連絡会で、3年ぶりの公演でした。

また、県立松山女子高校卒業の同級生ユニット「1年2組 Mami & Tazu」が友情出演をしてコンサートを盛り上げました。

尚、今回の取り組みでは、前日23日に隣町の滑川町の「古民家ギャラリーかぐや」でミニコンサートを開催することも出来ました。

同公演実行委員会は、7月15日に第1回実行委員会（会長・山下茂）を開催して、のべ6回開催して取り組みました。3年ぶりの公演で、コロナ禍でのコンサートということもあり、会場の設定（1200人収容）、コロナ対策で席を1席空けての取り組みの不安もありましたが、チケット販売もこれまでの公演開催で2番目の実績を残すことができ、うれしかったです。コンサート後の実行委員会では、実行委員からのうれしい意見も出て、以下のコンサート・アンケート集計結果（演奏とお気づきの点）が大変な激励となり、実行委員の皆さんの自信にもなりました。

（東松山公演実行委員会 事務局）



（上記：東松山公演アンケートより）

神奈川・相模原公演

戦車阻止闘争 50 年目の節目に
収支は厳しかったが、内容的には成功



●相模原のコンサートの取り組みについて

3年ぶりの開催となった相模原公演、10月26日夜、今回の訪日歌舞団最後の公演でしたが、財政的には赤字でも、内容的には「成功した」と評価しています。

相模原は、ベトナム戦争当時、ベトナムの戦場で使われた米軍の戦車の修理工場でした。1972年5月から相模総合補給廠の前で、当時の社会党や地区労のメンバーが米軍戦車の搬出入の監視行動を開始。同年8月5日から修理の終わった戦車や装甲車をベトナムに搬出する米軍の専用トラック「横浜ノースドック」手前の村雨橋で「戦車を積んだトレーラー」を止め、相模総合補給廠に帰らせ、以後100日間、補給廠の中に戦車を閉じ込めた「ベトナム戦車闘争」の街です。戦車闘争にこだわって20年ほど前から「ベトナムアンサンブル」公演を引き受けています。

今年は戦車闘争50年目の節目の年でした。そのため、何とか開催出来てホットしています。およそ200の方が来てくださいました。今年力を入れたのは市内在住のベトナム人に働きかけたことです。神奈川県中央部、相模原や座間、綾瀬などには、ベトナム人労働者がたくさん働いています。在住ベトナム人にアンサンブルを見てもらいたくて働きかけました。30人ぐらいの方が来てくれ（招待した）「ベトナムではテレビでしか見たことのない公演を見ることができた楽しかった。よかった。」との声をたくさんもらいました。

●なお、公演後、二人の方から感想が寄せられました。地元実行委員会としては大変ありがたく思っています。

ベトナムコンサートお疲れ様でございました。とてもよかったです。最後の演目のところでは、わたしを含め涙を流している人が多かったです。何がよかったかというと、わたしは石の楽器もすばらしかったのはもちろんですが、一生懸命というのが人の感動を呼ぶのだと思います。歳と共に一生懸命な心に感動することが多くなりました。

今後、ますますベトナムの音楽・楽器・舞踊のすばらしさを観せてください。地域で、確かな好評が話題になっていき、一年に一度の楽しみを待ち望むようになるといいですね。

それにしても、大変なご苦労が多いことと思います。よい後継者が続いてくれるといいですね。ほんとうにありがとうございました。 K・K さん

今夜は「ベトナムアンサンブルコンサート」相模原チャリティー公演に娘と行きました。

相模原は米軍基地が沢山あります。相模大野駅前の米軍病院には亡くなった米兵の棺が沢山運び込まれたとか。今の補給廠から戦車が戦地へ運ばれるのを阻止した市民の動きは、特に今年は50年という節目から大手新聞にも大きく取り上げられていました。

（これまでのコンサートは）日程が合わず自分は参加出来ず初めての観覧です。うわさでは聞いていたのですが、国立ボンセン歌舞団選抜メンバーは少数精鋭で素晴らしい演奏や演舞で魅力されました。

ベトナムには54の少数民族がいて、それぞれの文化があります。珍しい楽器の音色を楽しむことが出来ました。素材は、木はもちろん、竹、石などあり、音階やリズムも独特でとても明るい音楽になります。

おおらかな、東南アジアの農耕民の豊かさを感じました。衣装も少数民族の雰囲気のものから一曲ごとに違うくらいの衣装替えでとても豪華。

娘も想像の5倍良かった、感動したと涙していました。

多様性の大切さ、国家を超えた人間の存在についても考える機会になりました。

お誘い頂いた金子市議ありがとうございました。M・Yさん

（相模原実行委員会 金子豊貴男）



2022年の最終公演・相模原公演を終えて。ロビーの様

2022 公演実績

- 10月08日（土）宮崎・門川町
／門川町総合文化会館大ホール
- 10月09日（日）鹿児島市／中央公民館ホール
- 10月13日（水）※文化交流企画：福岡市
／福岡朝鮮初級学校
- 10月14日（金）福岡市／西南学院大学チャペル
- 10月16日（日）※文化交流企画：東広島市
／福祉センターホール
- 10月18日（火）高松市／穴吹学園ホール(旧高松テルサ)
- 10月19日（水）奈良市／学園前ホール
- 10月20日（木）京都市／呉竹文化センターホール
- 10月22日（土）新潟・長岡市
／長岡リリックホール・シアター
- 10月23日（日）※文化交流企画：埼玉・滑川町
／古民家ギャラリーかぐや
- 10月24日（月）埼玉・東松山市
／東松山市民文化センター大ホール
- 10月26日（水）神奈川・相模原市／南市民ホール

2022 コロナ禍でも工夫した活動が

実習生支援、チャリティーコンサート、そして役員若返りも検討

JVPF 宮崎支部

- ① 3月、8月、11月に支部会議を開催。
- ② 1月11日に、ハザンの中学校の校長先生宛に、メールを送る。JVPF 宮崎支部が支援している生徒達への手紙を添付。
- ③ 10月2日、県内で働くベトナムの若者達と椎葉村を訪問。台風による土砂崩れで死亡したベトナム人技能実習生の霊を弔う。3回忌。同災害で、自らも奥さんと長男を亡くされ、悲運の中で建設業を再開された A 社長が、一人で私たちを待っておられた。初めての出会いだった。A 社長は、終始行動を共にされ、帰るときは対岸から手を振って見送っていただいた。
- ④ 10月8日に門川町（かどがわちよう）で、2022 ベトナムアンサンブルチャリティーコンサートを開催。但し、このコンサートは、門川町の公益財団法人の「門川ふるさと文化財団」が、自らの行事として組み込み、チケット販売まで含め、全てを仕切っていた。
- ⑤ 貧しいハザンの農家の1世帯でもいいから生活向上に役立つものはないか、と考える中で取り組んできたことがある。漢方薬の原材料としての三七人参の取引である。鎌田さんの尽力をいただきながら、実現に向けて取り組み中である。
- ⑥ なお、椎葉村での A 社長の話にヒントを得た会員が、椎葉村を含む1市2町1村で基金を作り、ハザンに日本語教室を設置できないかと試案を作成、宮崎県日本・ベトナム友好協会の理事会でも確認、宮崎県ベトナム人協会とも意見交換、そして、鎌田さんのより詳しい案もいただきながら、実現の可能性を模索中である。

最後に、JVPF 宮崎の課題としての、役員若返りと会員拡大の議論を深めていることを申し添えます。

以上、拙い報告ですが、ご容赦ください。

(JVPF 宮崎支部 事務局 川畑 匡 記：2022/12/28)

チャリティーコンサートにドクさんの招聘を企画したが！！

JVPF 福岡支部



グエン・ドク

1981年、ベトナム中部のコンツウム省（枯葉剤が大量に散布された地域）で、結合双生児として生まれました。1988年、ホーチミン市のツーズー病院で17時間におよぶ分離手術が行われ手術は成功。その後、ツーズー病院のスタッフとして勤務し、2006年に結婚されました。2007年10月兄のベトさんが死亡（享年26歳）。2009年10月、双子の父親となりました。

福岡での4年ぶりのコンサートでしたので、ドクさんを招聘して枯葉剤被害の現状をアピールしていただこうと招聘しましたが、ドクさんがツーズー病院勤務ということで出国許可が出ず、やむなくリモートで出演ということになり、コンサート本番でのリモート演出は初体験でアンサンブル演奏より準備が大変でした。リハーサルを何度も行いましたが当日の通信状態はどうか、など気をもみながら本番を迎えました。なんとかスケジュールに沿って安堵の開催となりました。

コロナ禍でまだまだいろいろと制約がありますが、工夫しながら交流活動をすすめています。

(JVPF 福岡支部 高木豊彦)

チャリティーコンサート成功から、セミナー開催を展望

KVPF(香川)

2022年度における香川ベトナム平和友好連絡会議(KVPF)の活動としては、コロナ禍で延期されていた「ベトナムアンサンブルチャリティーコンサート」を10月18日(火)に開催できたことがメイン行事として挙げられる。コンサートの開催に向けて、実行委員会を立ち上げ、KVPFのメンバーが裏方の中心となり議論を重ねた結果として、コンサートが実現できたことは大きな成果であった。特に、KVPFの亀本幹事の所属する穴吹学園の留学生が、花束を出演者に対して贈呈するという嬉しいハプニングもあり、予想以上の大盛況となった。観覧した人々からも多くの賛辞があり、久しぶりの開催ではあったが、実行委員会のメンバー自身が、やってよかったと思える行事となった。

また、コンサートの開催も協議事項に含みつつ、月1回の定例事務局会議を開催し、情報交換の中から、今後の活動に向けた方針等を確認してきた。香川に在住するベトナム人(留学生を含む)との交流を通して、新たなコミュニティを創設することで、何かしらの支援に繋がるよう、取り組みを検討していくことを確認している。

当面、2022年度総会等の開催に向けて、日程調整を含め協議中であるが、総会の開催に合わせた形で、香川県、高松市、さぬき市など行政を交えた、ベトナム留学生等の交流や支援を考えるセミナーの開催も視野に入れて協議を進めている。

(KVPF 事務局 井出哲夫 記：2022/12/09)

胎動の年から「飛躍の年へ」

HVPF(広島)

・コロナ禍3年目、昨年は予定した事業の幾つかを変更・中止せざるを得ませんでした。とりわけ「日越国交樹立50周年」および「HVPF設立15周年」の「プレ年事業」と位置づけていたボンセン劇場アンサンブルによる枯葉剤被害児救援のためのチャリティーコンサート(6回目)の中止は残念でした。

しかし、技能実習生受入事業所や様々に連携いただいている住民自治協議会などの協賛支援を得て「演奏交流会」を



ボンセン歌舞団との演奏交流会模様

催すことができたことは救いでした。昨年に続き企画した「“エージェントオレンジDay” 2022 in ヒロシマ」は、コロナ感染拡大第7波のため「LOVE&PEACE コンサート」は中止しましたが、一週間の「パネル展」は成功させることができたことも幸いでした。

・コロナ禍前から「地域に根ざした交流」を通し「活動と組織の裾野を広げる」ことを志向しており、「テトを祝う会の地域分散開催を開始しましたが、3年連続で準備しながらの中止です。しかし、これらの経験とつながりから地域センターや生涯学習センターなど地域コミュニティと連携した「ベトナムがくしみん講座」、「ベトナム教室」は3地域で開講でき

ました。

この取り組みを通して広島大学ベトナム人留学生協会との関係が深まると同時に、地域で働く技能実習生、その受入事業所とのつながりもできてきました。

・また、3年前に迎えた学生会員(卒業後、HVPF理事を担っています)を事務局メンバーに加え、学生や若者を意識した取り組みを進めてきました。そうした中で昨年から広島大学ローターアクトクラブとの連携事業を開始、通年的で継続した連携を目指し合同事務局会議も開催しています。

・3年ぶりにクアンチ省を訪れ奨学金授与式に出席、人民委員会との会見で「日越国交樹立50周年」を機に一層の交流促進を確認し合いました。

「日越国交樹立50周年」と「HVPF設立15周年」という節目の本年、胎動し始めた新たな芽を大切に、さらに「活動と組織の裾野を広げ」ながら、次世代につなぐための「躍動の年」としたいと思っています。

(一般社団法人広島ベトナム平和友好協会(HVPF) 専務理事 赤木達男 記:2022/12/24)



安芸津地区で開催した「“ベトナムがく”しみん講座2」模様

23春訪問団の活動から

(詳細は次号)

日越外交関係樹立50周年の年に ハズン省・日越友好植林事業を開始

写真：開工式にはハズン市副市長ら要人の他、地元住民、学生、青年同盟員らも参加(2023年1月10日)



JVPF は日越外交関係樹立50周年の年にあたり、ハズン省で日越友好植林事業を始めました。日中友好会館/日中植林・植樹国際連帯事業(第三国用)の助成によるものです。

※1月に実施した植林ボランティア活動の報告は次号で(2023年7月発行)

●植林プロジェクトに取り組む経緯(企画書より抜粋)

・ベトナムでは現在、2021年~2025年を期間とする、「10億本植林プロジェクト」が地球温暖化防止や災害対策などの目的で提唱され、自然環境の維持のため国土における森林面積を42%で維持していくことが目指されている。同時に「10億本植林プロジェクト」は林業や木材加工業によるベトナム経済の活性化によってベトナム社会の発展に寄与する

ことが期待されている。

・1940年代以降、戦争による破壊や、戦後復興のための資材調達による過剰伐採、農地転換等により、森林が著しく減少した。1940年代頃には43%程度あった森林率が、1990年代には27%に減少していた。その後は、政府の取組、国際社会の支援等による植林により森林面積は徐々に回

復し、2018年には41.65%となっている。しかし森林面積が回復する一方で、貴重な生態系を有する天然林は依然減少・劣化傾向にある。背景として、ベトナムの人口の約3割(約2,500万人)が森林などの自然資源に依存した生活を送っており、焼畑農業、開墾、燃料確保などのために行われる森林破壊が山間部において顕著なことがある。

・これまでの友好活動のカウンターパートであるベトナム友好委員会連合(越日友好協会)より、協力を提案された。JVPPは奨学金支援事業及び枯葉剤被害者支援事業で友好関係の深いハザン省で植林プロジェクトをおこなうことを選択した。

・この事業は2023年が日越外交関係50周年を迎えることから、その記念事業としての意義をもっている。



禍収束が見えない 175,000,000ドンの「仁愛の家」建築基金を贈呈
い中コンサート開

催数が予定よりも少なかったこと、②為替相場の変動で異常な円安になったこと、などの理由で1軒贈呈に留まりました。また寄贈した費用の一部は2021年度寄贈「仁愛の家」建築費不足分として活用されることになりました。※詳細は次号で。

ハザン市で 枯葉剤被害者家庭2軒を調査・慰問

ハザン市フオンドー社の Nà Thác 村(ザオ族の村)で Lý Văn Ghì さん(写真右)を、Thôn Tha 村(タイ族の村)で Nguyễn Văn Nội さん(写真下)宅を調査・慰問してきました。



それぞれにお土産と2,000,000ドンを寄付してきました。被害状況は会報次号で報告。



ガイ・スエン郡少数民族学校で 奨学金贈呈 (速報)

ハザン省Vi Xuyen 郡少数民族学生寄宿学校で、2023年1月10日、奨学金贈呈が実施されました。今回の対象奨学生は四期生4年目(中学4年生)、五期生3年目(中学3年生)、六期生2年目(中学2年生)、七期生1年目(高校1年生)、単年度生(中学1年生)それぞれ10人の都合50人。
※活動詳細は次号で(2023年7月発行)



奨学金贈呈式は、テト前で「春のお祭り」も催され、民族の舞踊や飾りつけコンテスト、正月餅「バインチュン」づくりが行われていた。

2022 枯葉剤爆弾被害者貧困家庭へ の「仁愛の家」寄贈

2022年秋のチャリティーコンサート活動などの益金、「連合・愛のキャンパ」助成で、175,000,000ドンの寄贈をしてきました。

2軒の寄贈を予定していましたが、コンサート益金が①コロナ

掲示板

- 日越外交関係樹立50周年のとして日越友好植林事業をハザン省で開始しました。記念訪問団については別途検討することになりました。
- 認定NPO移行に関する件は、数年の準備期間をかけ2021年12月本申請を行い、2022年9月立ち入り調査を受け、「不認定」となりました。

2022年12月5日開催の2022年度第2回JVPP常任理事会では①寄付金の「受」「与」に関する事務管理を「認定NPO」の仕様に沿うように処理していく、②その上で、今後「認定NPO」

への再申請を行うかどうかは、再考する。——と整理しました。

●コロナ禍と学校移転問題が生じたことにより、以前のような通学学校としての運営正常化が遅々としていません。テト明けには本格的な学校再開を計画中です。現在、併設の寄宿教室と出前教室が主な事業となっています。
(右写真:寄宿教室の前で、ルオン校長と鎌田副理事長 2022-11/26)





原発建設中止となったタイアン村で想う
10年間のしこりが和らいだ
鎌田 篤則

ろだった。ブドウ園のオーナーに「原発建設計画は知っていたか」と聞いた。彼は「知っていた。建設されたらどうしようか、他の土地に移住しなければならないかな、と思っていた」と言った。



突端の岬あたりが予定地だったと、地元の人々はいう

ベトナムの原発建設予定地で、原発建設中止となった(2016年11月22日)ベトナム中南部ニントゥアン省ニントゥアンハイ・コミュニティ、タイアン村を訪れる機会を得た。

どうしても、一度現地を見てみたかった。

2012年1月の、駐日ベトナム大使館で催された新年の祝賀会で時の日本政府の菅直人政権の官房長官も務めた仙谷由人氏が嬉々として新年のあいさつをした。いわく「ベトナムでの原発建設の目途が立ったことを喜びたい」。2011年の3・11の東日本大地震と津波によって福島原発は破損し、その惨劇が終焉もしていないなかでの発言だった。怒りがこみ上げるのをやっと抑えた記憶がいまでも鮮明だ。仙谷氏が、時の前原誠司国交大臣(その後外務大臣)らと足繋ぐベトナムの原発建設にコミットしていたことは良く知られていたことだが、福島原発の人災ともいえる事故の痕が癒えぬ時であったので憤怒に体が震えた。

以来、そもそも、ベトナムが原発予定地として選定した土地とはどういうところか見てみたいと思った。なにがベトナムをそうさせているのか?

当時、友人たちからもベトナムの原発建設を危惧する声を多くいただいていた。3・11福島原発事故後、ベトナムを訪問するたびに福島原発事故の惨状をベトナムの各界要人に伝えてきた。その中には元・ベトナム国副大統領のグエン・テ・ビン女史もいた。

2016年11月22日、ベトナム政府は建設の中止を決めた。JVPP会報44号(2016年1月発行)で、「勇気ある撤退」ベトナム、原発計画中止」として田中秀樹氏がレポートしている。いくつか理由のなかに「福島原発事故によって核廃棄物の処理問題の検討の必要性が高まった」が挙げられている。

2022年11月25日、カインホア省ニャチャン市での用件を終えた後、カインホア省の南に隣接するニントゥアン省の元・原発建設予定地タイアン村に向かった。往路はニントゥアン省の省都のファンラン=タップチャム市に向かう幹線道路から左に折れ海岸線に出る経路をとった。幹線道路沿いにはおびただしい数の風力発電用の風車が立ち並んでいる。原発の代替えか、もともと風力発電に適していたのか。

ニャチャン市から片道2時間ほど要した。

幹線道路からタイアン村を目指したが道路は悪路で、工場や田畑が広がる風景でもなく貧しい地域かと想像させられた。

タイアン村に着いたとき海が近いのにブドウ畑が拓けているのに驚く。もぎりのできる観光ブドウ園を兼ねているとこ



タイアン名産を目指しているのか、ブドウ園の看板

実際の建設予定地だったといわれる海岸まで行ってみた。それまでの悪路が一変し幅拾い道路が整備されている。ネットなどで、タイアン村をイメージさせる写真として掲載されている漁師町にも足を延ばした。小さな漁港である。しばし、感慨にふける。

——《ドキュメンタリー映画『ニッポンの嘘』～報道写真家福島菊次郎90歳～》(2012年製作)を観たのは10年前の2012年だった。彼は90歳(享年94歳)でフクシマを撮った。彼がカメラを向けた女子高校生がいう。「わたしはもう子どもが埋めないかも」と涙を滲ませていた。ベトナム戦争枯葉剤爆弾被害者の「わたしの体の中では戦争が終わっていない」という叫びと重なる。

——タイアン村から帰った2022年12月末、福島原発被害者である友人のOさんからメールがあった。

《私は先月直腸がん疑いで切除手術。明日の命もいつも不安の日々です。福島のすべての被曝者は自覚するかしないかは別にして「襲われている」のが事実でしょう。7度の入院、1日も長く闘うことが一番の勇気を与えてくれます。わずかに残された知恵と勇気を機関紙に込めて書いています。今日は十数か所、組合、病院、農民に機関紙配布をしてきました。》

タイアン村からの復路は海岸線を辿る形でニャチャン空港に向かった。風光明媚な海岸線、海岸に突き出した小山を超えるごとに小さな漁村町が繰り返し現れてきて飽きさせない。原発より観光か。海岸沿いには瀟洒なりゾート、ゴルフ場など建設が進んでいた。

2012年1月以来、わだかまりとして残っていたしこりが少し和らいだ我がままな時となった。

記:2023年1月22日(テトの日)



タイアン村の漁師部落の漁港で。筆者